

メディアにおける学生の大学名使用の是非

島田博司

The Argument For and Against Media Visibility of the Students of Konan Women's University

SHIMADA Hiroshi

Abstract : Until last year, students had the free use of the college name on mass media in Konan Women's University. They don't need any notification of the use of college name.

Since June in 2005, it has been provided that notification of the use of college name must be reported in advance. The student affairs section deliberated over the matter and agreed upon the following article : the use of college name by the students may not be held without prior permission.

This Research reports about the comments on "the present situation of official permission for the use of college name on mass media" from the viewpoint of college students. For this purpose, I asked the students to give their opinions and comments on this situation.

These comments can be classified into two large groups and three small groups as follows : Group One, more than half of the students, is favorable to this permission system. Group Two, 24% of them, is unfavorable to it. Group Three is about the relaxation of regulations for fashion magazines for women. Group Four is of the opinion of "either will do". The last group gives no judgment for this permission system.

As a result, favorable or not, college students were generally concerned about damaging the college image by the free use of college name on mass media. For example, a student does not mind being regarded as "fashionable", but is worried that she might be regarded as "gaudy". Another would be annoyed with the image of an idle student, not with that of a grind.

Key Words : free use of college name on mass media, notification of the use of college name, student affairs section, college image

1. はじめに

大学にはさまざまなスクールカラーがあり、それを期待して進学を決める学生もいる。甲南女子大学にも、いろいろなイメージがある。それらは、学生が登場する TV や女性ファッション誌によって形成されている場合が少なくない。

ところで、それらのイメージが好ましいものばかりかというところ、そうとはばかりはいえない。こうした事態を憂慮し、本学では、2005年（平成17年）6月15日の学生委員会で、以下のような事項を決定し、7月1

日より実施した。それは、「学生が、雑誌、TVなどのマスコミに登場し、大学名（本学と認識される標記名を含む）を使用する場合は、必ず事前に学生部へ届出をする。届出があったときは、本学の教育理念・教育方針に一致する場合のみ大学名使用を許可する。マスコミでの大学名無断使用は、懲戒処分の対象とする」というものである。

2. 本論の目的

そこで、本論では、在校生を対象に、甲南女子大生（以下、南女生）のメディアへの登場が甲南女子大学

(以下、南女) やその他の南女生にとってどういうメリットやデメリットがあるのかをふまえた上で、今回大学側が実施したメディアへの登場規制 (以下、登場規制) についての意見や感想を求めたものをまとめることで、その是非の一端を把握しようとしている。

このために、登場規制が実施されてからほぼ4ヶ月たった2005年10月24日、人間科学部人間教育学科3年生対象の専門科目「教育社会学B」(受講生101名)で、学歴社会についての学習の一環としてレポート(分量制限なし)の形でまとめて、11月14日から16日の間に提出してもらうことにした。

レポートは、1) 南女イメージの実像と虚像、2) メディアに登場する南女生、3) 自分のポジション、の3つの観点から記述してもらった。本論で紹介するのは、「メディアに登場する南女生」の部分である。記述にあたっては、①登場している南女生のイメージ、②登場している南女生への気持ち、③自分も登場したいか(経験者は、登場してみようだったか)、④南女や南女生にとってのメリット・デメリット、⑤登場規制についての意見や感想、などの視点からまとめるよう指示した。

レポートは、91名が提出した。本論では、このうち、「登場規制」についての記述があった71名分を分析対象としている。

3. 記述内容の分析結果

提出されたレポートを内容別に分類すると、①「規制賛成」38名(53.5%)、②「規制反対」17名(23.9%)、③「女性ファッション誌への規制不要」3名(4.2%)、④「どちらでもいい」4名(5.6%)、⑤「その他」9名(12.7%)、となっていた。「規制賛成」が過半数を占め、大学側の措置を支持している。「規制反対」は四分の一だが、「女性ファッション誌への規制不要」を含めると3割弱になっている。

内容を詳しく検討しよう。「規制賛成」は、さらに5分類できた。それは、「南女生にはいろいろいる」13名(18.3%)、[看板を背負う必要はないし、迷惑な人もいる]12名(16.9%)、[南女の印象が悪い・誤解されている]8名(11.3%)、[規制をはじめるのが遅い]4名(5.6%)、[その他の少数意見]1名(1.4%)、となっている。全体的にみると、メディアに登場する一部の南女生による南女(生)全体のイメージの固定化、しかもよくないイメージの固定化を憂慮する記述が多い。ここには、南女生の多様性や素の南女

生が知られていないことへの不満がある。

「規制反対」は、さらに6分類できた。それは、[大学の宣伝になる]5名(7.0%)、[登場する学生自身の問題]4名(5.6%)、[規制をする意味がわからない]3名(4.2%)、[学生を応援して]2名(2.8%)、[南女生を背負っていることを忘れないで]2名(2.8%)、[その他の少数意見]1名(1.4%)、となっている。「女性ファッション誌への規制不要」での記述とあわせて把握すると、大学の知名度がさがることを心配したり、読者モデルのイメージガールの存在としての存在意義を認めたり、メディアへの登場は個人の自由の範疇のうちという記述が多い。少数だが、学生のキャリア支援として応援してはという意見もある。

「その他」としては、登場規制をするにあたって、大学側の意図の周知徹底を求める声と、イメージが固定化してしまっており、今さらやってもなにも変わらないのではないかという感想が述べられている。

以下、レポートの記述一覧を収録しているので、ご覧いただきたい。なお、下線部は、分類する際に筆者が目にした記述である。

【記述一覧】

収録にあたって、レポートから登場規制に関する記述があった部分を切りとる作業をしている。この関係で、文章の前後がわかるように言葉を補ったり、文章の前後をいれかえたりしている。また、紙数の関係で、メディアへの登場規制やそれに類する記述は、「登場規制」という簡略表記で統一している。また、文末の()内は、所属学科と学年を略記している(日:日本語日本文学科, 英:英語英米文学科, 仏:フランス語フランス文学科, 多:多文化共生学科, 教:人間教育学科, 社:行動社会学科, 環:人間環境学科)。

①規制賛成

〔南女生にはいろいろいる〕

*メディアに登場することで知名度を得ることができ
るメリットはあるが、お姉系としてみてほしくない
南女生もいる。メディアに登場することで、それが
絶対的なものになってしまう場合もある。その点か
ら考えると、登場規制については賛成である。「南
女=お姉系」というイメージなどは薄れていくだろ
う。固定概念で南女をみるのではなく、南女にはい
ろんな人がいるんだということを、南女と直接接す
ることで感じてほしい。(日3)

- * 女性誌にでていいる南女生はとてもオシャレで、そんな人たちをみて、こうなりたいと思う人もたくさんいるでしょう。それは、自分を表現するという点では、とても優れていると思います。雑誌やテレビにでて、多くの人に自分を知ってもらうのはよいことだと感じます。けれど、南女生全員が派手でそんな生活をしているのだと、一括りにされるのはいい気分はしません。きつとこうやって一括りにする人たちが増え、南女のイメージが昔と比べて悪くなってきているから、規制などをしなければならなくなったのでしょうか。もっと、「自分は自分。他人は他人」という気持ちがあれば、規制をする必要もなくなります。(仏3)
- * 南女生が登場することで、大学の名前は売れるが、実際はいいようには感じない。同じように思われたくない、と思う場面も多くあるからだ。登場規制については、納得している。大学名を記載したりすることで、よくも悪くもなる。それならば、大学名をださない方がよい。(教3)
- * 雑誌やメディアにとりあげられブランドものをたくさん身につけている最先端の女子大として売りたいのなら、規制をする必要はない。そこまではなくても、外見的な要素からも学生を確保していこうとしているのなら規制はいらない。しかし、一女子大として、勉学や部活動、大手企業への就職のことなどを考えると、やはりこのあたりで南女のイメージを一新したい。そのためには、メディアに対する規制が必要だと思う。(英3)
- * メディアにでることは、モデルになりたい子や興味がある子にはメリットがありますが、それによって南女のイメージが「雑誌に載っている子」みたいなイメージになるのはあまりよくないです。登場規制は、よいと思います。私は今もたれている南女のイメージなどを少しでも変えてもらいたいです。(教3)
- * 雑誌などの影響で、南女生は派手にみられます。私は、初対面の人などに「南女にってます」というと、「派手な子ばかり？ お金持ちばかり？」といわれますが、「雑誌にでてるような子は一部だけだよ！」といいます。実際、そうだと思います。どこの大学でも派手な子は一部いるし、南女でもその一部の子たちが雑誌にでていいるので、派手なイメージがつくんじゃないでしょうか。私は、雑誌にでるのは個人の問題だし、よいと思います。でも、あまりにも下品な子がでると、イメージはさがるのでやめてほしいです。なので、登場規制は、よかつたんじゃないかな!?と思っています。(教3)
- * 雑誌に載ること、南女生に憧れる子もいるかもしれませんが、南女生はみんなそんな子ばかりだと思われるのかもしれません。登場規制によって、まわりの人の南女に対するイメージは変わってくると思います。(教3)
- * 南女生のメディアへの登場が他の学生たちに、メリット・デメリットを与えているかどうかはわからない。うらやましいと思う人もいれば、あほらしいと思う人もいいるだろうし、興味のない人もいいるだろう。けど、真剣に授業を受け、資格を得るために勉強しにきている人もたくさんいいるわけで、その人たちは学業となんの関係もないメディアに登場することをよくは思っていないかもしれない。「自分は違う。南女を一まとめにしないでほしい」と不愉快に思っているかもしれない。みんながプラスのイメージをもっているわけではないし、納得のいかない人も多くいいるだろう。登場規制は、私はいいと思う。わざわざ大学名までだすこともない。(教3)
- * 「南女=派手・お金持ち」というイメージにしてしまったのは、彼女たち。雑誌に載ること自体は悪くないが、学校の名前をだしてでると、一部の学生のイメージが全体のイメージになってしまっているので、よくない。だから、登場規制はいいと思う。学校名をださずに個人ででる分には、まったくかまわない。メリットといえば、南女というだけで男の目の色が変わることぐらいしかなくないように思う。(教3)
- * 南女生すべてが同じイメージでみられてしまうのは、困ります。規制は仕方ないと思いますが、メディアに登場すること自体は悪くないと思います。基本的には、お店とかでバイトとかするのと同じことだからです。ただメディアはより多くの人の目に触れるので、南女の名前をだすならそれなりに気をつけていただきたいです。(教3)
- * メリットは、雑誌にでていいることで憧れて入る人が多くなることだと思う。デメリットは、すべてがそういう南女生ではないのに勘違いされること。読者モデルのイメージが強すぎて、大学のイメージができあがっている。登場規制はいいと思う。他の女子大では、雑誌にでることさえ許されてない大学もある。大学名をださなければ、なにをしてもいいと思う。(教3)
- * メディアへの登場は、大学を華やかにみせ、大きな

プロモーションになりますが、一方では軽くみられ、学業の面においてもデメリットがあると思います。私の友達も雑誌に登場していたけれど、あまり学校にこなくて単位もとれていませんでした。結局、留年という形になり、やめていきました。雑誌にでるための服を買うために稼ぐ、撮影で学校を休むなど、優先順位が間違っているように思いました。登場規制は、本当に学問に専念したい人たちに とってきにくい環境にあるので、仕方がないように 思います。(環3)

- * メリットは、南女の「ブランド」としての価値があることです。知名度もあがるし、オシャレできれいな人が多いというのはやはりいいと思います。デメリットは、メディアにでることによって、派手な印象を与えてしまうところです。登録規制は、すべきだと思います。 メディアにでるのはその人本人であって、そのことによって大学全体のイメージを決められてしまうのはおかしい、 と思うからです。(教4)

[看板を背負う必要はないし、迷惑な人もいる]

- * メディアへの登場は、南女や南女生にとって、「オシャレな子が多い」と思われる点ではメリットですが、とり方によっては「派手で遊んでそうな子が多い」ともなりますので、その点ではデメリットになっています。登場規制については、賛成です。メディアにでるのにわざわざ「南女生」という看板を背負う必要はないし、外部からみた南女のイメージとぜんぜん違う子にとっては迷惑なことだ と思うからです。(英3)
- * 雑誌に掲載されることはその人の勝手だから、別にとにかくいうつもりはないけれど、南女生ということ を公表する意味はなんなのかわからない。 本人はいいイメージと思っているのかもしれないが、迷惑だ と思っている学生もいる ことを知ってほしい。 それとも、南女生といわなければ、認めてもらえない のだろうか。 そうだとしたら、なんて悲しいんだろう。 うまく言葉がみつからないのだけれど、「自分」としての自分ではなく、「南女生」である自分しか認めてもらえない と思っているような気がして ならない。 在籍している今だけでなく、卒業後も「南女生」という肩書きにすがって生きていく のだろうか。(仏3)
- * メディアに登場することによって、南女が全国的に有名になるというメリットはあると思う。有名になれば、学生は増えるし、その分いろんな設備や施設

も充実する。しかし、メディアに南女生として登場するということは、南女生のイメージをその学生が背負う ということ。 その学生の言動や行動がみる人の南女へのイメージに直結することがおおいに 考えられる。 なにも知らない人は、その学生が南女のすべてだ と思うかもしれない。 いい意味でも悪い意味でも、イメージというものは簡単に つくもので、登場規制はあった方が いいと 考える。 メディアに登場する学生がどのような学生なのかを大学側は把握すべきだ。(多3)

- * 「南女」と表示されることで、その光景が「派手」と映れば、それが社会に南女イメージとして強く残るのだろう。登場規制については、その影響が考えられた末の決まりであるし、それは大学側の事情も含め、登場していない学生や登場している学生たちのためにも必要だ と思う。(教3)
- * 近年の悪いイメージは、とくに雑誌によって広まったと思います。雑誌に載っている南女生が、「派手・ケバイ」というイメージをもたれているから、「南女に通う人=派手な子」につながっているのだと思います。私は、そういう雑誌に載って目立つことが好きだ と思われること自体が問題 なん だ と思います。 しかし、まったくでるなどは 思いません。 学校名を伏せてどの学校の学生かわからないようにすることは、南女にとってはいいんじゃないか と思う。 少なくともメディアへの露出が多い、目立ちがりのイメージがなくなるまでは。(教3)
- * メディアに登場することによって知名度は高くなりますが、その人たちだけを見て、すべての南女生がいっしょだ と思ってほしくない です。 登場規制は、さまざまな問題が生じているから はじまった と思うので、南女生として大学が決めたことに従うだけ だと、私は 思っています。(教3)
- * 登場規制についてだが、私は賛成だ。というより、もともとメディアに登場するにあたって、「南女」をアピールする必要があった のだろうか。 世間では、「この人、南女生なんやあ」と 思われる かもしれないが、それが どうかしたのか。 世間がメディアで、ある人を南女生だと知った ところで、意味がある のだろうか。 また、世間が評価をするにしても、世間にはなんのメリットもデメリットもない のではないかと 考える。(教3)
- * 南女という看板を背負っていると思うので、みんなに学校名を知ってもらうにはいいかもしれませんが、悪いイメージがつかないようにしてほしいで

す。登場規制ができたことは、雑誌にできることを快く思っていない人のことも考慮していると思います。(教3)

* メリットは、南女が有名になることです。通っている者としては、うれしいことです。デメリットは、偏ったイメージを与えてしまうことです。人は、団体を一括りに考える傾向があるので、南女はお姉系だと勘違いされてしまう可能性があります。登場規制については、デメリットの大きさもあり、名前をだすことによって不愉快に感じてしまう人がいるかぎり、規制するのは最善の策だと思います。(教3)

* 南女生がメディアに登場することによって、ある意味の知名度はあがるというメリットもありますが、メディアにおける南女に対するイメージばかりが先行し、メディアに登場していない他の学生までもそのイメージで評価されるというデメリットもあると思います。そのことを配慮してはわかりませんが、今年から南女生ということメディアにだすことができなくなりました。今メディアにでている人はどうかはわかりませんが、他の学生はいい規制だと思っのではないかと思います。(教3)

* JJ や ViVi をみると、必ずといってよほど毎月、南女生が雑誌に登場しています。また、「お嬢さま学校に通うセレブ大学生」などという番組をよくみかけますが、たいがい南女生が登場しています。確かに、とっても華やかで、今ふうな感じがしますが、実際の南女を知らない人々がこれをみたら、「南女はみんなこんな子たちなんだ」と思うに違いありません。私たち華もない普通の南女生には、ちょっと迷惑です。(教3)

* メリットは、大学に対する知名度があがること。デメリットは、お姉系向けの派手な雑誌にでていると、南女生全体が派手だというイメージをもたれやすいこと(モデルの印象がそのまま南女の印象につながってしまうこと)。登場規制には、私は賛成です。大学名をだすこと自体禁止して、「K 大学」などのように表記する方がいいと思います。(教3)

〔南女の印象が悪い・誤解されている〕

* 南女生がテレビや雑誌などに登場することによって、南女の存在を世間の人に知ってもらったり、そのことで外部の人と話が弾んだりというメリットはあります。でも、南女っていうだけで、みんなが雑誌などに登場する学生と同じようにお姉系のお金持ちだったり、チャラチャラしてると思われたりするの、あまり気分がよくないです。登場規制です

が、私は南女の印象が世間的にあまりよくないので、規制をつくったのはいいと思います。でも、それによってイメージがよくなるわけでもない気はします。(教3)

* 関西のことをまったく知らなかった私が南女の存在を知ったきっかけは雑誌なわけだし、全国にその名を広める意味でも、登場に反対はしない。選ばれたかわいい子がでているので、同じ大学というのは自慢にもなる。でも、チャラチャラしたイメージが強くでる。「南女は、頭、悪そうだよね」といわれたことがある。「遊んでいる」という勝手な印象が強いようだ。実際、南女の名を売りにしている子もいるとは思いますが…。登場規制は、妥当だと思う。全面禁止にしてしまうと、私のように南女を知った人が減るだろう。だからといってオープンにしすぎると、雑誌から勝手な印象がひとり歩きして、悪くなりかねない。そこをうまくするのは難しいと思うが、学校側の制限の考えには賛成である。多分、就職を控えている私だから、そう思うのかもしれない。(教3)

* メリットは、南女生は幅広く活発に活動していると思われるだろうし、いつの間にか憧れの人になり、この人と同じ大学にいきたいということにもなることです。反対に、デメリットは、世間の目はまだまだ厳しいところもあり、チャラチャラしてる、派手すぎるなど大学の名を汚すこともでてくることで、私はいいと思います。(教3)

* ファッションに敏感でオシャレな学校であると、多くの人たちに「南女」を知ってもらえることができる。しかし、メディアで活躍している人たちだけを見て、南女全体、南女生のイメージがつくりあげられていく。派手な上、学生みんながいつもあんな格好をして通学しているのか、ファッションに気を遣いすぎで本当に勉強はしているのかなど、思われてほしくない悪いイメージをもたれつつあることがイヤな面でもある。登場規制については、そんなよくないイメージがもたれていることを考えると、「N 大学」「K 大学」などのように載せる方がいいのかもしれない。その点からすると、登場規制について賛成である。(教3)

* メリットは、知名度が高くなること。「いい環境で育った人が多い」みたいなイメージができる。デメリットは、「あ～、南女か～」みたいな、ちょっとバカにされたようないい方をされること。「お金持

ちだけど、頭、悪そう」みたいなイメージをつけられる。登場規制は、とてもいいことだと思う。今までは、南女の名前があると目について、「すごいな〜。この人も南女か〜」とか思っていたけど、あまり悪いイメージがつきにくくなりそうと思った。(教3)

*南女生がメディアにでることで、全員が「派手・お嬢さま・ブランド好き・金持ち」という印象をもたれているのがイヤなので、これがデメリットだ。メリットはあまり思いつかなかったが、知名度があがることだ。登場規制については、これを規制しただけでイメージアップが図れるとは思わないけど、南女についていいイメージをもっている人がいなかったので、個人的にはこれはいいことだと思っている。(教3)

*南女生は、洋服やアクセサリーなどのファッションセンスが飛びぬけている。確かにまわりはいろいろいかもしれないけれども、本当はみんなの憧れの的だ。雑誌に載ることは、自分を表現するひとつの方法なのではないか。しかし、外部からみれば、「オシャレに莫大な時間を費やしているから、勉強に努める時間はないのだろう」と考えることもあるらしい。確かに、こんなにオシャレな学生が多い学校は珍しい(これで偏差値が高ければ、外部の人に羨ましがられるどころか妬まれるだろうが)。学校が勉学の場であると考えたら、オシャレは関係ない。だから、今回のように学校名を表示しないことは、外部からの誤解を少なくするのではないだろうか。簡単に学校名を表示しませんという姿勢が、学校のイメージ的な部分を落ち着かせるのではないか。(教3)

*南女生がメディアにでることによって、南女が日本中に知れ渡るメリットがあるが、「軽い」「遊んでる」などと勝手に思われるデメリットもある。登場規制については、賛成である。南女のイメージがこれ以上悪くならないようにするためにも、規制は必要だ。(社3)

[規制をはじめるのが遅い]

*大学に入って、雑誌にでている人を食堂でみたとき、すごく態度が悪くて、なんだか幻滅。その人がテレビの深夜番組にでていて、その話し方が頭の悪いような感じがして、さらに幻滅。同じ南女生として、恥ずかしくも思いました。メディア規制ですが、はじめのが遅かったので、イニシャルでだしてももう知っている人には知られているし、効果が

ない気もします。でも、やらないよりはマシかなあと思っています。(教3)

*南女生が登場することによって、そういった人に憧れる子は南女にきたがるだろうし、知名度もあがってメリットがあるけど、そのイメージが固定化してしまい、あまりよくないうわさとかが広まりそうなデメリットがあると思います。登場規制には、ビックリしました。でも、すでに南女の名前と固定登場している子が多いから、遅い気もしました。(教3)

*実際の南女生の大半は、メディアに登場しているような人たちを自分とは別ものだと思っているように感じる。意外と冷静にみているのではないか。登場規制をはじめるのが、少し遅かったのではないかとと思う。(教3)

*あるテレビのクイズ番組に南女生がでていましたが、みていて恥ずかしくなるものでした。こんなところから、「南女=アホっぽい」というイメージがどんどんつくと思い、少し悲しくなりました。でも、雑誌で活躍してる子たちには、好感をもっています。「南女=オシャレ」といった感じだからです。だけど、デメリットもやはりあると感じます。それは、私は地味なタイプなんで、よく「南女っぽくないねー」といわれるのですが、そのいい方が少しイヤな感じに聞こえてしまうところです。つまり、私みたいな地味系が南女に引け目を感じるようになってしまうんです。南女と名乗りにくいというか、そこは個人的に困ってます。登場規制については、「なにを今さら。遅いって」と思っていました。(教3)

[その他の少数意見]

*メディアに登場している人のイメージが、世間では南女のイメージにつながる。メリット・デメリットは、それ次第だと思う。登場規制は、どのくらいの効果があるのかよくわからないが、学校側の意図が伝わるものなら、やる意味がある。(教3)

②規制反対

[大学の宣伝になる]

*自分ででていて楽しいし、なにかのきっかけになると思ってでているのならいいですが、一般的に恥ずかしいとされていることをメディアを通していわれると、大学全体のイメージにかかわってきます。それをふまえて登場するのは、大学のいい宣伝になることもあるのかもしれませんが、いいのではないのでしょうか。(英3)

- * 私自身は、「南女はオシャレで、かわいいが多い」と思われることに関してはプラスイメージになるのでいいですが、オシャレよりも勉強を熱心に行っているマジメな子からしたらあまりうれしくないとか、みんながみんなそういうような学生ではないと主張したい子もいるのではないかと思います。私は、同年代の子がメディアにでることに関しては賛成です。登場規制ですが、規制前とたいして変わらないのではないかと思います。学校側からすると、一部の学生がマスメディアに登場することで派手なイメージがつき、校風が乱れるなどの理由から規制したのですが、今さらという感じがします。そして、学校名をだすことが必ずしも南女のマイナスイメージにはつながらないと思います。年下の女の子で、私が「南女にいつている」というと、どういうわけか、「私もいきたい」という子がいたりします。それはおそらく、南女生がメディアに登場していることが一因ではないのかなと感じました。また、男の子も、南女というかわいの子が多いと勝手に思っているようです。事実かどうかはさておき、メディアに登場する南女生は、プラスイメージをつくる要因にもなっているのではないかと思っています。(多3)
- * メリットやデメリットは、あまりないと思います。雑誌をみている人が全員影響を受けるわけではないし、実際に雑誌に載っていても、いろんな学生が南女にはいるわけだし…。登場規制ですが、今さらという気もします。これだけ雑誌にたくさんの人が載っていて、今も継続状態なのに、学校名がインシヤルになっただけでなんにも変わらないような気がします。でも、これからの年代には「南女=派手」というイメージはなくなるのかな？ でも、それで受験人数が減るといふことになれば、学校としてはデメリットなのではないでしょうか？(教3)
- * メリットは、この大学へきたらこの子たちに会えるなど学校のイメージガールの存在になることだと思います。デメリットは、メディアにでてくる子が変なことをしたら、そのイメージがついて、みんながみんなそう思われてしまうことです。しかし、そのような話を聞かないのに、なんで登場規制になったのでしょうか。今まで普通に載っていたのに、意味がないような気がします。メディアにでたことで、学校のイメージが変わってしまったのでしょうか。それはよくわかりませんが、私は規制する必要はないと思いました。(教3)

- * メリットは、南女生像が豪華なので、友達などに私も豪華なイメージがつくことだ。それで優越感？みたいなものに浸れる。デメリットは、南女生であることのプレッシャーだ。いつもオシャレな格好をしていないとガッカリされる。それに、南女というと、「遊び半分の学校」といわれる。さらには、「バイトとかって、お水やる？」といわれる。登場規制については、残念に思う。雑誌で南女の文字がみられなくなったからだ。それなのに、他の女子大は名前を掲載して、すごく悔しい。また、南女と名前をだすことによって南女の宣伝にもなっていたと思う。(教3)

[登場する学生自身の問題]

- * メリットは、みんながオシャレに気を遣って美人になること、かわいくなること！ デメリットは、彼女たちも少々見栄を張るため、まわりからの極端な中傷などが増えること。それがまわりまわって、南女のイメージにもつながると思います。登場規制は、とくに衝撃もなく、「へ〜」と。どう規制しようが、彼女たちなりの自己表現なので、これからも絶えることなくメディアに登場すると思います。私は、メディアに登場することに反対ではありません。(教3)
 - * メディアへの登場は、その人自身の問題だと思う。ただし、そういった人が南女生のイメージになると思うので、それがデメリットだ。(教3)
 - * メリットは、ファッション雑誌で学校が有名になっていくとともに、私たちがファッションに対する関心が強くなり、いい刺激になることです。しかし逆に、一部の人からは華やかさが注目され、キャラキャラしたイメージをもたれてしまっていることも事実です。登場規制には、正直、私は反対です。今さら登場規制をしても過去は消えませんし、登場してる彼女たちはなにも悪いことはしていないのに隠す理由がわからないからです。(教3)
 - * メディアへの登場するのは、本人の自由でいい。それが、後々の自分につながっていくのだと思う。(教4)
- #### [規制をする意味がわからない]
- * メディアに登場して南女は有名だが、悪いことではない。登場規制は、あまり意味がないように思う。学校名を伏せても、もうほとんどの人は知っているのでは…。(教3)
 - * いまだに、登場規制をする意味がよくわかりません。今から南女についてイメージを払拭しようとし

でもときはすでに遅いと思うし、「南女生の有名な読者モデルが着ている」という事実だけで別にかわいくもない服が売れるのだから、経済効果的には微弱だろうと働いてそうだし、メディアに「南女」が載るのはいいことであるとさえ思いました。デメリットとしては、やはりイメージの固定化があげられます。でも、固定化したイメージを壊していくのは個人の問題だと思うので、「南女だからこうみられる」と考えるのは間違っています。「メディアに露出している南女生のせいで、南女生が悪いようにみられる」と考えたり発言したりするのは間違っている、と私は思います。ケバイというイメージをもたれるのを嫌う人はたくさんいるけれど、じゃあそういう人たちはどんなイメージをもたれたら満足なのかと反対に聞きたいです。(社3)

- *掲載される学生は、ひがまれたり、サイトで叩かれたり、変なうわさを立てられたりする。こういううわさがまわると、南女のイメージもそうなる。それは、デメリットだ。今年から登場規制がかかったが、なぜそのような規制をかけたのかわからない。甲南女子という大学に通っているのだから、こそこそ隠さず、名前に誇りをもって載せればいいのではないか。(環3)

〔学生を応援して〕

- *メリットは南女が全国的に有名になること、デメリットはある種のイメージがついてしまうこと。登場規制について、私はとくに規制をしなくてもいいのではないかと思います。雑誌などででている人は、夢に向かってがんばってるし、学校側も応援してみてはどうかあ…と思います。(英3)
- *メリットは、南女にはオシャレな子が多いと思われることで、うれしいです。女性ならだれでも、オシャレでありたいとか、きれいでありたいと思っています。一部の面だけで南女をイメージされるのはあまりよいこととは思えないのでデメリットともいえるかもしれませんが、女性にとってオシャレであることはかなり重要なことです。しかし、オシャレであることが目立ちすぎて学業をおろそかにしていると思われるのではないかとということもあるので、それがデメリットではないのでしょうか。登場規制も、そのような部分があったのではないかと思います。が、しなくてもいいと思います。そういう業界にいることで得られるものもあると思うし、そこで自分の将来したいことがみえてくるかもしれません。(社3)

〔南女生を背負っていることを忘れないで〕

- *メリットは、①南女の知名度が広がり、知ってもらえること、②ブランド校としての知名度があがること(ブランド校でありたいとも思っているから、思えることです)。デメリットは、①みんなが雑誌に登場する人たちと同じだと思われること(服装など)、②固定的なイメージをもたれること(派手・お金持ち・お嬢さま)。登場規制をする必要はないし、大学名もだしてもかまわないと思っています。南女は他の大学に比べて少しイメージだけが先行しているところがあるので、本当は自由にでてほしいですが、南女の名前をだしてメディアにでる場合は、南女生のイメージを背負っていることを忘れないでほしいです。(教3)
- *雑誌名も番組名も実際みたことがないからわからないが、登場規制がはじまったことは大学にとってはマイナスだったかなと思う。大学名を載せることは大学全体のイメージにかかわるから、それなりのオシャレをして登場してほしい。(教3)

〔その他の少数意見〕

- *メリットがあるかという点、それほどないだろうと思います。でも、雑誌やメディアに登場する人みたいになりたいと思って南女に入った人を聞いたことがあるので、その人にとってはメリットだったのかもしれない。デメリットはなにかというと、やはりそのような人が目立つことによって、外部の人がもっている南女のお金持ちで派手なお嬢さまのイメージをさらに強めてしまっていることです。だからといって、登場規制をすべきかといわれると、疑問に思います。私には、そこまでする必要があるので、どうか、はっきりと答えをだすことができません。(教3)

③女性ファッション誌への規制不要

- *メディアに登場すると、名前が世にでるわけですから多くの人に南女を知ってもらえるメリットがある一方、一度悪いイメージがついてしまうといつまでもそのイメージがつきまってしまうデメリットもある。JJの雑誌の特徴からいうと、ちょっと服が派手なので、そういう雑誌に南女の学生が多く掲載されれば、「南女の子は、みんなこんな感じなんだ」と思われるのは自然な流れでしょう。実際それが元で、私のように入学前に不安に陥ったり、いきなり学科があってもイメージがあんまりよくないということで受験をあきらめたりした例があったと聞

きます。そういう面を考えると、今年から無断で大学名を使うことを禁止したことはいいと思います。しかし、南女生が雑誌に載ること自体は悪いこととは思いません。南女生の服のセンスがかわいらしいといった理由で世に公表されることは、むしろ喜ばしいことです。ただ、メディアにはたくさんの情報があるようにみえて、実はある一面しか捉えられていない場合がほとんどです。一度ある形式で紹介されてしまうと、そのイメージがなかなか離れないという厄介な面をもっているのです、メディアに登場する方々には行動や言動に注意してもらいたいです。

(日3)

* ViVi や JJ にでている南女生は、チャラチャラしているといったマイナスイメージをよく聞く。けれど、自分自身を表現できる場所だと思うし、私も参考にしてるので、がんばってほしい。(仏3)

* 一部の人のメディア露出によって大学に「派手」というイメージがついてしまうのはデメリットともいえるのかもしれませんが、逆に大学の宣伝効果になっているメリットの方が大きい気がします。登場規制については、正直、大学がそこまでいう権利があるのか疑問です。大学には多種多様な人がいて当然の場所だと思うので、ファッション誌へ登場するくらいのことは「個人の自由」の範疇のうちと考えてよいのではないのでしょうか。メディアに登場している学生に対しても、単純に「いつも手を抜かないで、オシャレしてて、すごいな」という感想しかもっていません。(教3)

④どちらでもいい

* メディアを通して、たくさんの人にこの大学が知られるのはいいことだと思います。すべてをプラスにとる人はいないかもしれませんが、少なくともそこに憧れる人はできます。私自身、雑誌に掲載されているから悪い大学とは考えたことはなく、その大学のパンフレッドやホームページなどをみて入学を考えていたように思います。登場規制については、どちらでもいいです。「なぜ？」と聞かれると、はっきりした答えはありませんが、たとえ名前を隠しても、雑誌にでている事実は変わらないし、とくに悪いことをしていないのだからとも思います。しかし、一般的な人の目からみて雑誌のみで評判がさがるのであれば、学校名を隠すことは仕方のないことだとも思います。ただし、大学名をだすかださないかの影響がそんなにあるとは思いません。(教3)

* 私は、どちらかという、いいイメージをもっているのですが、なかには「ケバイ」とか「お金がかかる」などのよくないイメージをもっている人もいます。だから、私は雑誌での大学名を伏せるというのはいいとも思いますし、憧れをもってくれている人がいるのは事実なので、伏せなくてもいいのでは？と、どっちつかずの意見です。(教3)

* 南女の読者モデルからの影響は、少なからずあると思います。やっぱりオシャレに関して敏感になるでしょう。けれど、派手な格好でメディアに登場することによって、他の南女生もいっしょだと思われたりする部分に関しては、マイナスになります。登場規制に関しては、私はどちらでもいいと、正直思います。モデルとしてでている子たちに対しては、「その子たちはその子たち。自分は自分」と思っているの、とくに規制してほしいといった感情は、前からありませんでした。(教3)

* メリットもデメリットも、紙一重かもしれません。登場規制については、どちらともいえませんが、本当に登場したいのなら、南女という名前は一切使わず、自分の名前だけで登場してほしいです。(教4)

⑤その他

[大学側の意図はなに]

* 私は、自分のメリットになることはまったくありません。みんながみんな「お金持ち」で「お嬢さま」で「ブランド」をもっている「かわいく華奢」な女の子ではありませんし、反対にそれだけの女の子と大学だと思われるがイヤなときもあります。登場規制については、「なぜそうなったのか。今までこれだけ登場を許していたのに、なぜ今の時期なのか？」についての説明が学生にまったくなされていないのが気になります。(多3)

* 南女生がメディアにでること、南女は「神戸のファッション大学」として大きなブランド大学となっていると思います。登場規制については、なぜ規制したのかよくわかりません。南女側としては、女の子のファッションブランド学校としてみられるのがイヤなのかな？と思いました。(教3)

* 雑誌に載ることによって、友達も増えたりするかもしれない。しかし、「雑誌に載ってるから～」という理由で友達を無理やりつくろうとしていないか!?と思う。今さら雑誌に「J 大学」と載せても、「みんな、南女か…」と思うのには変わらない。登場規制するのは、学校のイメージをさげないための、と

りあえずの逃げ道としか思えない。(教3)

- *メディアに登場する学生を、私は批判したくない。ただ、自分が「甲南女子」という名前を背負っていることを自覚してほしい。登場規制は、大学側に学生が自らの責任をとれないのだと見切られたのだと思う。それならば、しっかり見極めて学生を入学させたいのではないか。そう思うが、少子化で経営も困難な今、責任のとれる学生だけを入学させることはできないだろう。その結果、大学名無断使用禁止になった。よい女子大学づくりからは、どんどん逸れていっているような気がしないでもない。

(教3)

- *南女に入ると、お洋服や美容関連などにお金がかかるというイメージがつくデメリットもあるかもしれませんが、メディアに登場する学生をみたり周囲からいわれたりすることで、センスがよくなったり自分に磨きがかかり、いろんな意味できれいになるメリットもあると思います。登場規制ですが、大学側が「イメージが崩れる」という意見だとしたら、大学側がいうイメージを聞かせてほしいです。しかし、学生の生活に対して真剣にとりくんでいるともとらえられます。(教3)

[なんで今さら]

- *メディアへの登場によって学校が有名になり、その学生たちに憧れをもって入学してくる子がいるのはメリットである。でも、学校はあくまでも勉学に励む場であるから、容姿だけをピックアップされることはどうかと思う。メディア規制は、なんで今さら…と、正直私は思っている。そういった雑誌をみる子たちは、とくにだれが南女生かくらいわかっているし、イメージはそう簡単に変わらないと思う。(教3)

- *南女のイメージを大きく左右するというデメリットがあるし、南女という大学を多くの人に知ってもらえるというメリットがあると思います。登場規制は、「今さら?」という気持ちが大きいです。(教3)

[なにも変わらない]

- *JJなどに興味がない人たちにとったら、自分の大

学のイメージがどんどん悪くなっていくのに反感を覚えるでしょう。しかし、メディアに登場する人たちにとったら、読者モデルとしてや、テレビ出演など、タレント活動的なことができます。登場規制ですが、そもそも大学名を公表しなくても雑誌には載れるし、たいして変化はないと思います。(教3)

- *育ちがいいとか、いいイメージばかりだといひのですが、南女生だというだけで「毎日遊んでるんやろ」とかいわれるのは心外です。登場規制がはじまりましたが、今のところなにも変わっていないような気がします。(教3)

4. ま と め

今回、登場規制が実施されてからほぼ4ヶ月後に、在校生の意見や感想を拾ってみた。その結果、「規制賛成」が過半数を占め、大学側の措置を支持する声の方が多かった。

とはいえ、「規制反対」も25%弱あり、さらに「女性ファッション誌への規制不要」を含めると3割弱という、決して少なくない数の学生が支持を表明していないことも明らかになった。

ところで、本論では紹介できなかったが、レポートをまとめる際の予備段階として書いてもらった、南女(生)のイメージやメディアに登場している学生への気持ちなどへの記述も勘案すると、南女が「オシャレでファッションナブル」とみられるのはいいが、それがどこかでズレてしまい、「派手でケバイ」とみられるようになっていくことを危惧する学生の声大きい。そして、そのズレが、「勉学する」イメージでなく「遊んでる」イメージを呼びこんでいることを学生は迷惑視している。逆にいえば、そうならなければ登場規制は無用ということなのだろう。

今後の課題は、さしあたり2つある。それは、1) 今回の調査対象となった学生が人間教育学科の3年生が中心だったので、全学的なものに広げて確認する必要があること、2) 登場規制の影響が徐々にでてくると考えられるので、その影響を追跡調査する必要があること、などである。